

令和五年度同窓会入会式挨拶

本日は、板倉定夫会長をはじめ、同窓会役員の皆様をお迎えして、令和5年度愛媛県立吉田高等学校同窓会入会式が執り行えますことを大変うれしく思います。また、日頃は本校の教育活動に対し、物心両面からの御支援を賜り、まことにありがとうございます。この場を借りて、御礼申し上げます。

本校は、山下実科女学校の創設以来106年、吉田高等学校75年の歳月が流れ、本校の卒業生が全国各地で活躍しております。前身の私立山下高等女学校などを加えた同窓生は、あなたたちを含めると22,997人に上ります。

今年度は、長年開催されていなかった関東支部や近畿支部の同窓会が10月に盛大に開催され、私も出席させていただきました。昭和の高度経済成長を支えた方々が多数おられ、日本の発展にも数多くの卒業生が関係していることを実感しましたし、本校へ届く求人票の多さがこういうところと関連しているということを確認しました。イケベ楽器という全国規模の楽器店があるのですが、雑談の中で本校の卒業生が創業し、経営していたということも知りました。そこは、B'zの松本孝弘氏がアルバイトをし、デビューした後もバックアップを続けてもらっていたところです。そういうところも吉田高校同窓生が支えていたのかと感激いたしました。

明日、卒業式を迎えられる皆さんは、今どのような気持ちですか。未来に向かう喜びと期待、友達、先生と別れる寂しさ、高校生活での出来事、心残り・・・いくつもの思いが駆け巡っているのではないのでしょうか。

本校の校訓の起草者でもある吉田三傑の一人、村井保固氏は、亡くなる間際に、見舞に来てくれた友人に

「人は、二十歳くらいまでは故郷に追うところが非常に多い。それで私は米国から帰るといつも吉田に帰ることにしている。有為の人が故郷を顧みない傾向にあるのは嘆かわしい」と伝えました。未来を切り拓きながらも、影響を受けた故郷のことを考え、振り返ってほしいと願っていたようです。皆さんも、本校の同窓生としてこれからそれぞれの道を歩み始めますが、どの途を選んで進むとしても、皆さんの人生の礎を築いたのはこの吉田高校であるという自信と誇りを持ち続け、吉田高校のことを愛し続けてください。

本校を卒業した方々は、本校卒業を誇りに思っており、この吉田高校が大好きで、同窓生として皆さんを歓迎してくれます。あなた方もこれから、全国に広がる同窓会の一員として、本校を見守ってください。

最後になりましたが、愛媛県立吉田高等学校同窓会のますますの発展を祈念いたしまして、令和5年度同窓会入会式の挨拶とさせていただきます。本日は、おめでとうございます。

令和6年2月29日

愛媛県立吉田高等学校

校長 村井 浩昭